

1. 目的・基本的認識

(1) 計画策定の目的

太宰府市は太宰府天満宮や門前町一帯、さらには観世音寺・戒壇院、大宰府政庁跡、水城跡及び九州国立博物館等の日本有数の観光資源を有しており、多くの観光客が訪れていますが、我が国は、少子高齢化社会となり、人口減少が進む中で、経済の維持や成長には、地域へ人が訪れる交流人口の拡大が重要です。また、観光産業は経済活動を伴うことからまち全体が潤い、成長していく原動力となりえます。

こうしたことから、住む人も訪れる人も共に喜びをわかちあえるまちづくりを目指し、今後の太宰府市の観光振興についての基本的な考え方、目標を示し、また、その具体的な施策を示す「太宰府市観光推進基本計画」を策定します。

基本計画の実施期間は 2019 年度から 2023 年度の 5 年間とします。

(2) 太宰府市に「観光」がもたらす効果

観光がもたらす効果として、次のようなことが考えられます。こうしたことから太宰府市においては観光を推進するものです。

① 文化の継承と活用

太宰府天満宮や大宰府政庁跡、水城跡、客館跡等の史跡、まつりや伝統といった長年守り伝えられてきた文化は、観光客の目に触れることで新たな価値を生み出す資源となり得ます。

また、こうして文化を継承し観光資源として活用してきた太宰府市だからこそ国内で 4 番目となる九州国立博物館が建設されたとも言えます。

② アイデンティティ¹の醸成と発信

太宰府市は、古代に大宰府が造られて以降、多様な人々と文化を取り入れ、その積層の結果として、日本の歴史の中で他都市には無い強い個性を有していることから、現在の「太宰府」の知名度は全国有数となっています。こうしたことは市民一人ひとりが誇りとして自覚し、また、わがまちを愛することにもつながり、それが太宰府のシビックプライド²として発信されていくこととなります。

③ 人との交流による都市の多様性や社会包摂（ソーシャルインクルージョン³）の発揮

国内外の来訪客、さらには高齢者から若者、子どもまで、様々な人の交流があることで太宰府市が多様な人を受け入れ、お互いに尊重しあうまちになります。このような都市の多様性の発現は、成熟期を迎える我が国の都市において必要な要件であり、持続可能なまちの条件となっています。閉鎖的な空間ではなく、あらゆる人を受け入れていく素地は、古来から文化交流都市だった太宰府ならではの個性であると考えます。

④ 観光まちづくりによる地域経済循環と都市基盤の拡充

古くから多くの人の交流があった太宰府市では、交通の要衝として、高速道路や鉄道・バス等の公共交通等のインフラ整備が進められてきました。

また、国全体でインバウンド⁴が増加する中、観光関連産業は大きな経済効果を生み出す産業分野として位置づけられています。多くの人を呼び込み、滞在してもらうことで、市内の関連する産業において雇用を創出し、それが定住人口を増やし、市内の経済循環を生み出していくものです。

(3) 観光を推進するにあたって

太宰府に観光に来られる方は、太宰府のみならず、福岡市、柳川市、筑紫野市などの福岡県内や、あるいは大分県、熊本県、長崎県等の九州主要観光ルートを巡る観光を楽しむ場合も多いことから、観光の推進のためには行政境に捉われずに、『大太宰府』的な観点で他自治体との連携他観光客目線での取組を進めていく必要があります。

また、太宰府市における観光の発展は太宰府市内だけではなく、天神・博多駅、博多港、福岡空港周辺や福岡都市圏の都市基盤形成や経済効果に大きく寄与していることから、今後も周辺地域との連携により相乗効果を発揮させる取り組みを進めていくことが必要です。

Point

幅広い産業への波及効果

